

教科教育学コンソーシアム設立会議－記念シンポジウム－
指定討論

日本教科教育研究に学ぶこと 及び今後への期待

(中国上海) 華東師範大学 教師教育学院
沈曉敏

2021年3月14日(日)

アウトライン

- ◆中国における教科教育研究の現状と課題
- ◆中国が日本教科教育研究に学ぶこと
- ◆今後に期待

教科教育学に相当する外国語

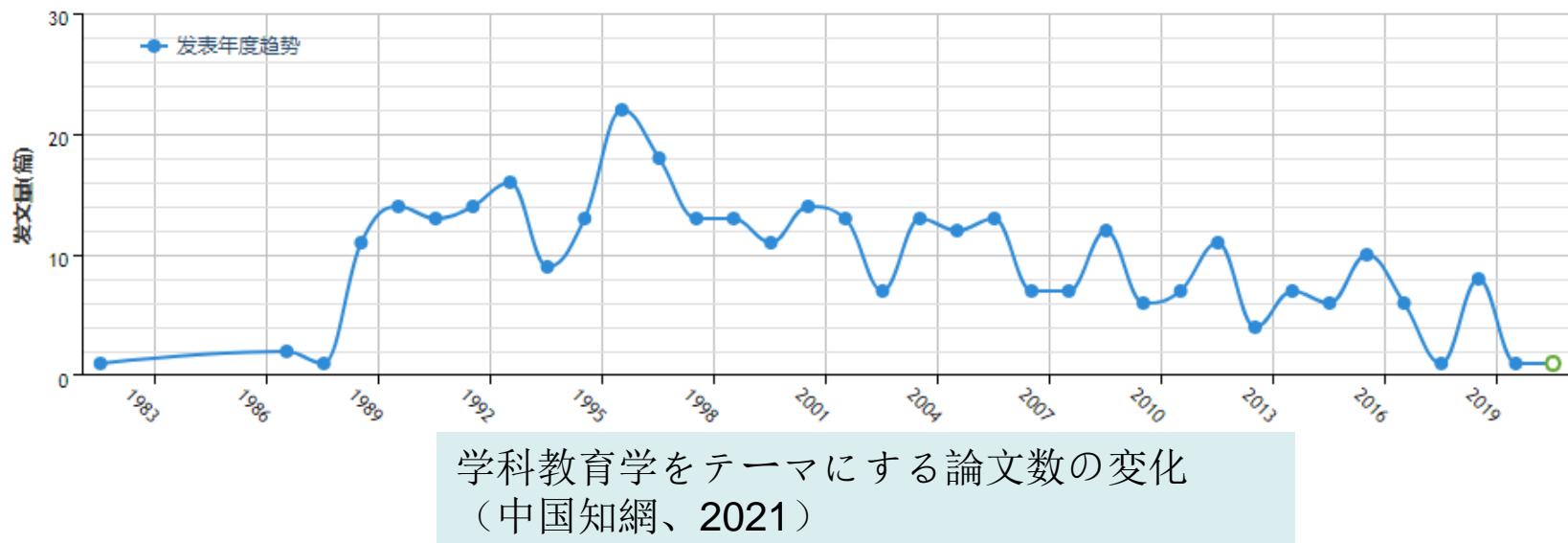
英語で、curriculum and instruction

中国語で、課程与教学（課程と教学）

（池野 2016）

中国における教科教育研究の現状

- 1990年代には、師範大学において「学科教育」（日本の教科教育に相当）という専攻があった。例えば、歴史系には歴史教育という専攻があった。
- 学科教育研究は一時活躍し、1990年代～2000年代初めに“学科教育学”的成立が提唱され、独自の研究目標・領域・方法論について検討した動きが一時あったが、「学科教育学」をテーマにする研究成果も研究者も少なくなっていく。



学科教育学的反思与重建

昌庆钟

(井冈山师范学院 政法系,江西 吉安 343009)

2006年1月
第22卷 第1期

高教发展与评估
Higher Education Development and Evaluation

Jan. 2006
Vol. 22 No. 1

文章编号: 1672-8742(2006)01-0039-03

学科教育学发展的回顾与展望

张晓凤

(洛阳师范学院继续教育学院,河南 洛阳 471022)

2008年 第11期
总第182期

兰州学刊
Lan Zhou xue kan

No. 11 2008
General No. 182

·教育学研究·

论学科教育学研究新视域

马岳勇

(新疆师范大学 法经学院,新疆 乌鲁木齐 840054)

第41卷第11期
No. 11 Vol. 41

宁夏师范学院学报
Journal of Ningxia Normal University

2020年11月
Nov. 2020

我国学科教学论研究七十年回顾与展望

崔藏金

(宁夏师范学院 外国语学院,宁夏 固原 756099)

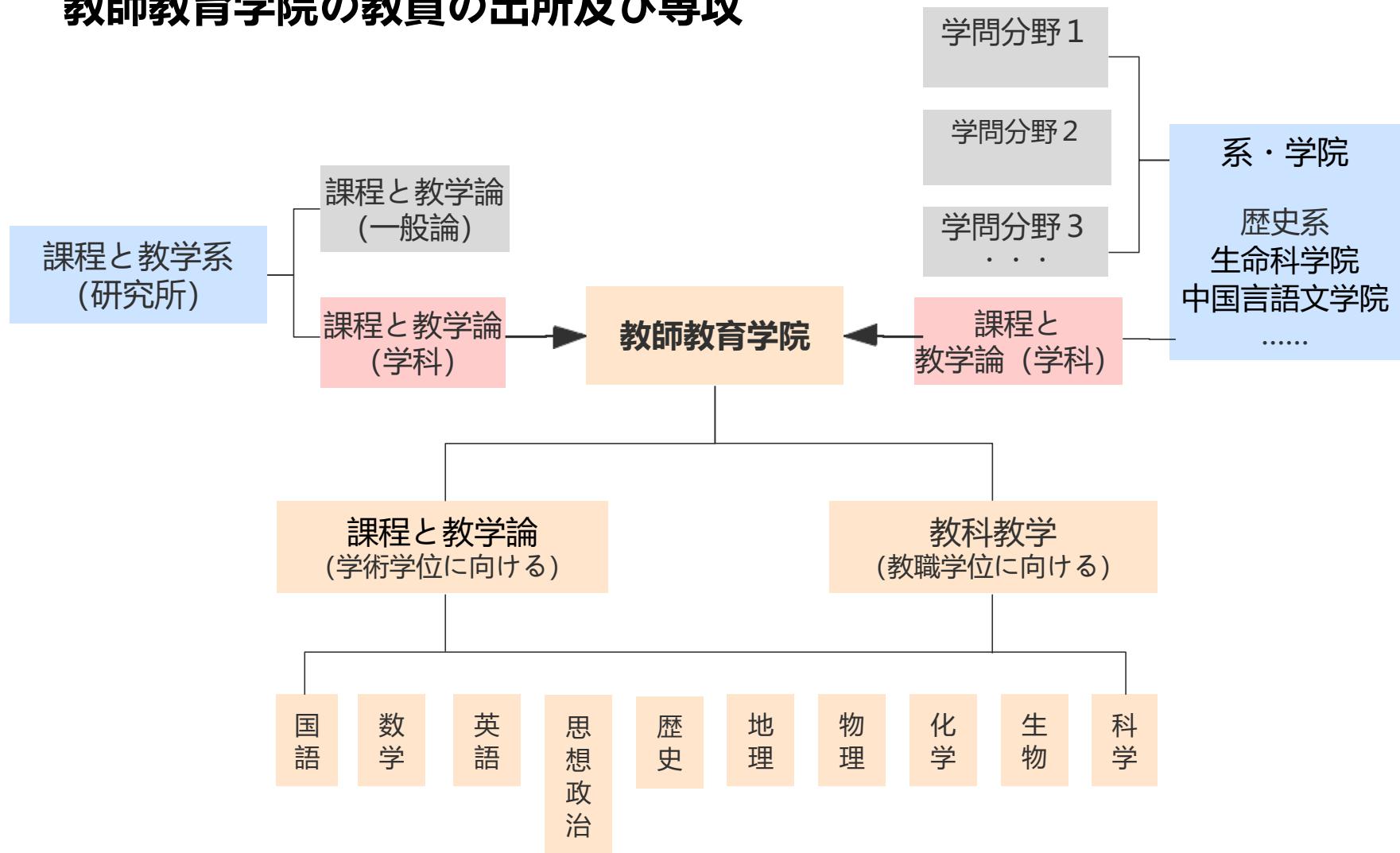
中国における教科教育専攻の変遷

華東師範大学 歴史教育専攻を例に

年代	専攻名称	設置部門	設置部門（大学院のみ）
1985以前	歴史教材教法	歴史系	教材教法研究所
1985~2000	学科教学論（歴史） →学科教育（歴史）	歴史系	教材教法研究所 →課程と教学研究所
2000~2015	学科教育（歴史） →課程と教学（歴史）	歴史系	課程と教学研究所
2015~	①課程と教学（歴史） ②学科教学（歴史）	歴史系	教師教育学院

1980年代後半から2000年前後、各師範大学は「学科教育」（日本の教科教育に相当）という専攻を設置した。そして各教科教員養成課程には、例えば歴史の場合、歴史教育学という必修科目があった。

◆ 2015年華東師範大新設 教師教育学院の教員の出所及び専攻



中国における教科教育研究の現状と課題

1. 中国の教科教育研究者は教科教育研究の独自性と学術的・社会的なプレゼンスの向上を継続的に求められ、教科教授法から教科教育、さらに課程と教学へと、名称を頻繁に変えてきた。現時点ではアメリカ系curriculum and instruction論に従って、自国の教科教育研究の独自性を図る研究は深められることなく、教育学の中でのプレゼンスも定着していない
2. 教科教育研究者の地位が低いことは次の2点に現れる。
 - ①毎年教授昇格において劣勢に立たされること。
 - ②国の教育課程改革（学習指導要領の作成）を指導する専門家グループへの影響が小さいこと。教育課程改革に提案する声が弱い。

教科教育研究が中国の教育学界における地位が高くない要因

外部要因

- 学術界は特定の学問の研究規範・基準、または一般教育学の研究規範・基準によって、教科教育研究成果を評価する。
- 教育実践を対象とする研究の価値が見落とされ、教科教育研究の独自性や価値を認めない。

内部要因

- 教科教育研究の理論性が欠けている。
- 各教科の授業方法上の技術面に関する研究が多い。
- 各教科教育学に限られている研究が多い。
- 教育実践への関わりが不足している。
- 研究共同体が形成されていない。

日本教科教育研究に学ぶこと

① 日本の研究者共同体に学ぶ

教科教育研究に対する世間のステレオタイプを払拭するためには、日本のように教科教育研究者の研究共同体を形成し、長期にわたって各教科を横断する目標、内容、方法を明らかにする研究を行うとともに、とくに今日の提案のように教科と学問の関係、教科教育学の構成などについて議論し、教科教育研究の独自性と価値を明らかにし、主張して、学術界に認められるように努力しなければならない。

日本教科教育研究に学ぶこと

②日本の教科教育の「理論と実践の往還」に学ぶ

日本の教科教育者が実践者との連携、理論と実践の結びがより強い。それは、研究者と実践者との共同の授業研究、学習内容（知識）と具体的な事例をうまく結ぶ教材開発、分かりやすい教科書のデザインなどに現れている。

「教科教育の理論と実践は表裏一体である、往還する関係にある」「理論と実践は絶えず往還し、それが精緻化される」（木下博義,2016）。この「往還論」及び日本の研究者が持っている「理論と実践を往還」する力を研究し教わるべきである。

③日本の教材開発に学ぶ

社会科の場合、有田のネタ教材、谷川の地名教材、安井の歴史授業の教材開発（「あ、野麦峠」など）、中村哲の伝統文化教材開発、梅野正信の判決書教材論などに数多く示唆されて、中国で活用した。

④日本の授業研究に学ぶ

中国も授業研究をやるが、授業の対話と様子を記録し、子どもの変容や動きを通して学びがどのように発生したのかをきめ細かく分析することは不足している。

今後に期待

第一、日本の教科教育学の研究成果を世界に発信するために、国際的交流を深めるネットワークを作ると同時に、世界的に理解され、伝えやすく、覚えやすい概念（キーワード）で教科教育学の日本的ディスコースを述べる必要がある。

「抽象から具体へ」に強い日本人は、今後「具体から抽象へ」にも強いのでは。